

STOP THE 地球温暖化!



地球温暖化により世界中で大型の台風や集中豪雨、干ばつ等が観測され、多数の死者や農作物への甚大な被害をもたらしています。日本でも、猛暑日や強い雨の発生回数が増加すると予測されています。

このような中、平成 27 年（2015）にフランスのパリで採択された「パリ協定」により、世界の 197 の国と地域が温室効果ガス削減に一丸となって取り組むことが決まりました。

日本でも「地球温暖化対策計画」を策定し、自治体等と連携し、様々な地球温暖化対策の取り組みを実施することで、温室効果ガスを削減しようという目標を立てています。



オールかつしかでつくるコンパクトで低炭素なまちを目指します!

葛飾区では、交通の整備などによって、楽しく歩いて暮らせるまち（コンパクトシティ）を目指すとともに、創エネ・省エネ・蓄エネ等による低炭素なまちを構築し、地球にやさしいコンパクトな暮らしが実現した「コンパクトで低炭素なまち」を目指します。



将来像

オールかつしかでつくるコンパクトで低炭素なまち



葛飾区では温室効果ガスを 28%削減します!

葛飾区では、新たに削減目標を「平成 42 年度（2030）までに平成 25 年度（2013）比で 28%削減」と定め、国や都と連携し、本計画で定めた施策を進めることで、温室効果ガス排出量の削減を図っていきます。

1 区全体の温室効果ガスの排出状況

平成 26 年度（2014）の温室効果ガス排出量は 1,591 千 t-CO₂ で、前計画の基準年である平成 21 年度（2009）と比較すると 4.5%増加。

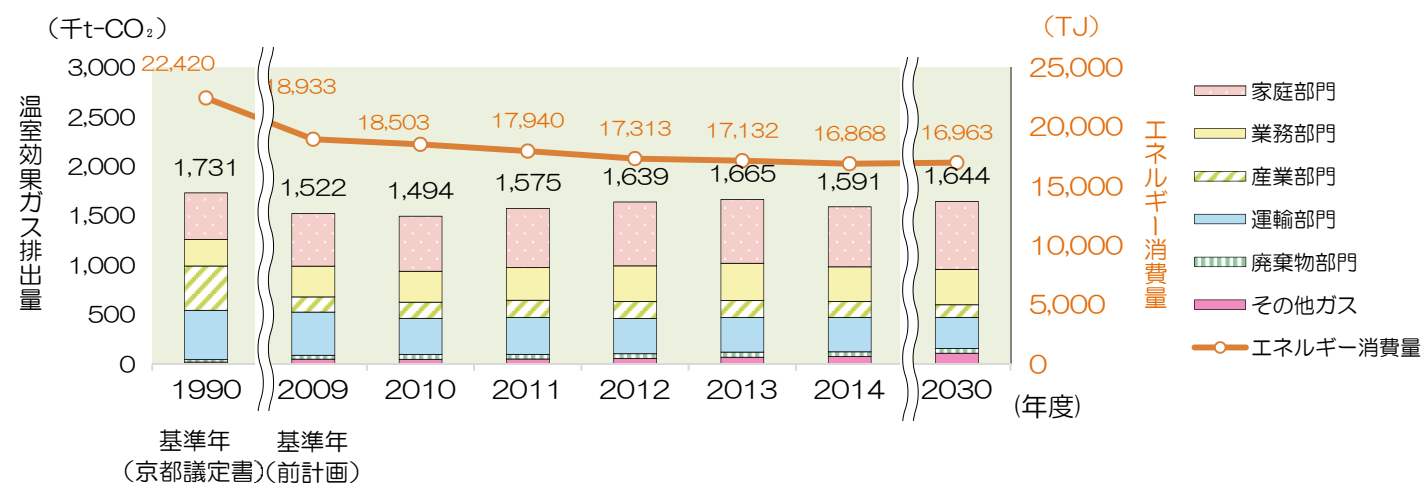
2 部門別の排出状況

産業部門は、平成 21 年度（2009）と比較してほぼ横ばいであり、今後はやや減少すると予測。家庭部門（家庭での消費）、業務部門（ビルや事務所等での消費）では増加しており、今後も増加する予測。運輸部門は大きく減少しており、今後も減少する予測。

3 エネルギー消費量の状況

電力の排出係数の影響を除いたエネルギー消費量の推移をみると、平成 26 年度（2014）のエネルギー消費量は 16,868TJ で年々減少傾向にあり、前計画の基準年である平成 21 年度（2009）と比較すると 10.9%の減少。

（電力の排出係数によりエネルギー消費量と温室効果ガス排出量の増減が比例しない場合があります）



資料：「特別区の温室効果ガス排出量 平成 29 年 3 月 みどり東京・温暖化防止プロジェクト」より作成

